



『災害応急井戸』

皆様お元気ですか！

先日、ボランティアの方が私の事務所にお見えになりました。お話をお聞きかせいただくと、私の事務所近くの希望ヶ丘地区センターで井戸掘りに成功したとご報告いただきました。私も井戸のことは不勉強でしたので、機械を使わず手作業で井戸を掘ることができることに感動いたしました。それも70代から90代の高齢者の方々5人が中心になって作業されたようで、炎天下の季節も含め9ヶ月間も掘り続けたそうです。災害時に生活用水として使用できるので心強い限りです。お手伝いした子どもたちや地域の方、ご協力いただいた地区センターの関係者の皆様にも感謝申し上げます。

熊本地震から一年経ちましたが、災害時には、やはり命や生活に直接関わる水の確保が重要です。横浜市の災害対策の水に関しては、「飲料水」と「生活用水」に分けて対応しています。

「飲料水」は、災害用地下給水タンクを134箇所整備しており、459箇所の各地域防災拠点には350mlの水缶を2000個備蓄しています。しかし、必要とする飲料水は個人差もあり、どれだけ必要になるかわからないため、三日分9ℓの備蓄を各家庭にお願いしています。ちなみに我が家は9ℓより多めに備蓄しています。

トイレや手洗いに利用できる「生活用水」は、地域防災拠点のプールの水等を活用することを考えていますが、被災状況により、どれだけ水が必要になるかわかりませんので準備することに越したことはありません。避難所ではトイレなど生活用水の不足を心配して飲む水の量が少なくなり体調を崩す方ができることも心配されますので、飲料水と同じように生活用水も多めに備えるべきだと思います。

生活用水に関しては、現在、横浜市には災害応急井戸が2529箇所あり、旭区には317箇所、水質は2年に1度



横浜市薬剤師会に依頼して安全検査を行っています。

少し問題なのは災害応急井戸がどこにあるのかをホームページで公開していないことです。個人情報のあるかもしれませんが、所有者の理解を得られるのであれば事前に災害応急井戸の場所を市民の皆様にも周知すべきかと思えます。

民間企業では、森ビルが災害用井戸を六本木ヒルズや虎ノ門ヒルズなど17箇所に自主的に設置しています。個人宅の井戸だけでな

く森ビルなどの民間企業のように横浜市も各公共施設に災害用井戸を設置することも検討すべきだと思います。他都市の事例では、千葉市や京都市が小中学校などの避難所に井戸を設置しています。

議員提案で作った災害時における自助共助条例の第1条には「市民及び事業者の自発的な防災に関する活動の促進を図る」とあります。災害時には隣近所や地域が助け合わなければなりません。井戸掘りボランティアの取り組みは、もちろん防災意識も高まりますし、イベントに行えば地域コミュニティの盛り上がりにもなると思います。場所によっては地質や水質の問題で井戸を掘るには適切でない所もあるかと思いますが、ボランティアの方々にもご協力いただきながら、積極的に災害用井戸を整備することを市として応援すべきだと思います。皆様のご意見をお聞かせください。

都市緑化よこはまフェアは好調です。山下公園など港ガーデンもいいのですが、地元ズーラシア隣の里山ガーデンにまだ行かれていない方は、秋篠宮同妃殿下もご覧いただいた大花壇を是非ご覧ください！入場無料です。

爽やかな初夏を花と緑とともに、ごゆっくりお過ごしください！

横浜市議員 古川 直季

古川なおき プロフィール

県立希望ヶ丘高校・明治大学 卒業/明治大学公共政策大学院 修了/横浜銀行勤務後、衆議院議員秘書
平成7年4月 横浜市議員初当選(26才最年少) /自民党横浜市議員団所属
平成28年 温暖化対策・環境創造・資源循環委員会/孤立を防ぐ地域づくり特別委員会副委員長
横浜市会FCキャプテン/希望ヶ丘高校同窓会桜蔭会理事/旭区サッカー協会顧問
旭区スポーツダンス協会顧問/旭区卓球協会顧問/旭区食品衛生協会顧問/旭区剣道連盟顧問





ライトセンターで学んできました！ 学生レポート

3月某日、二俣川にあるライトセンターを見学し、体験させていただきました。
「え？」「そうなんだ！」と学ぶことが多く、今後自分たちの行動に移していきたいと思いました。

※神奈川県ライトセンター：視覚障害の方々や視覚障害者を支援するの方々のための施設

当日のプログラム

- ・ 講義：全盲の方のお話 / 普段の生活の仕方や最新機器等を使ったサポート / 支援側の誘導のやり方と留意点
- ・ 見学：ライトセンター内の施設見学
- ・ 体験：アイマスクを用いての誘導体験（↓写真）

● 視覚障害者の主な情報源は音声

- ・ 視覚障害を発症する人の9割は成人後の発症
- ・ 全盲の方は1割程度であり、多くは視機能が弱く矯正ができない弱視と呼ばれる人たち
- ・ 点字の識字率はおよそ1割

これらのことはすべて私にとって予想外でした。また、点字以外の情報入手の手段となっているのは主に音声だということが分かりました。弱視の方の中にははっきり大きく書けば読める方もいるため、文字の大きさや濃さ、フォントを変えて本や教科書を刷り直すボランティアも存在します。私たちが伺った日は、ちょうど拡大（本の字を大きくする）ボランティアの方が大勢活動されていました。

視覚障害を持つ人のためのグッズや点字ブロック、バリアフリー化も大切ですが、それらには限界があります。近くにいる人が一言声かければ済むことも多いはずですが、目が見えない、視機能が弱いために直面する危険を確実に取り除けるのは、人の手助けのように思います。今回の見学で自分の視覚障害に対する知識不足に気づくことができました。視覚障害の方が困っているようであれば、以前の自分より自信を持って「大丈夫ですか？」と聞けると思います。

専修大学 法学部 1年 Y.M.

● 視覚障害者支援のスマホ機能や生活用品

スマートフォンの機能には元々読み上げの機能がついていることを知りました。私も実際に目を瞑って体験してみました。かなり使いやすかったです。さらに、お札には隅に認識できるように凹凸があるのですが、実際にはあまり分からないそうです。その際にスマホのアプリを使えば、お札の金額を認識して教えてくれるそうです。

オセロ、トランプなどのゲームや、糸通しなど普段の生活用品まで様々工夫されているものがありました。また、センターでは様々なスポーツが行われていましたが、ジムでは私たちと同じ機械を使って体を動かしていました。特殊なスポーツもありますが、そうでなくてもできると思うと身近に感じることができました。

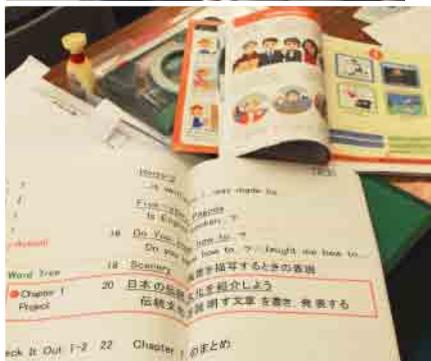
今回の体験をして、自分はかなり思い込みが強かったと感じました。実際に視覚障害の方のお話を伺うことは初めてでしたが、自分のイメージと現実との違いが多かったです。皆さんが明るいことがとても魅力的でした。

専修大学 法学部 1年 Y.A.



← 歩く時のスピードや、段差など足元情報の声かけ、並んで歩くために、掴んでもらう腕のポジショニングなどがポイント

左：視覚障害者役 / 右：誘導者
誘導者は視覚障害者の半歩前に立ち、肘の上を握ってもらう。左右どちらでもOKだが、危険な所は視覚障害者がより安全な側にいるようにする。



↑ 手触りマークで色面の違いが分かる
← ボランティアさんが拡大した教科書

● サポートしようとする意識が大切

私は昨年1年間イギリスに留学していたのですが、ヨーロッパの街では、日本ほど点字等のサポートを見かけなかったことを職員の方に質問すると、「意識の問題ではないか。街や人々にサポートするという意識があれば点字がなくてもさほど困らないのではないかと」答えてくださいました。視覚障害の人に対して、障害に焦点をあてないで接する文化があるから、周りの人達が声をかけていたり、何か協力できないか聞いていたりしていたのかなと思います。もちろん、日本の街中の点字等のサポートは素晴らしいと思います。しかし、それと同時に我々日本人一人一人が欧州の人々の様な意識を持つていくことが大切なのではないかと考えます。周りへの感謝の気持ちを忘れずに、今後も私自身、しっかり成長したいと思います。

帝京大学 文学部 4年 D.Y.

学生インターン
常に募集中!

前向き! やって みよお!

古川事務所では、学生インターンがいろいろな活動をしています。一緒にやりませんか?お気軽に事務所までご連絡下さい。お待ちしております!



お気軽にご連絡ください。

FAX: 045-366-9700 / TEL: 391-4000

E-Mail: jm@furukawa2002.com

みなさまのご意見をお待ちしています!

古川なおき政務調査事務所

〒241-0825 横浜市旭区中希望が丘 199-1
希望ヶ丘駅より徒歩6分

